

命をつなぐ 生きるを支える フードバンクぎふ

11/15 サポーター交流会開催♪



日頃「フードバンクぎふ」の活動に参加しているサポーターの交流会を行い、活動交流が行われました。

大垣エリア(大橋担当)では、東海コープさんから提供される生鮮食品を30世帯に配布。独居の方から8人家族まで、世帯数に応じた量に入れ替えるなど、きめ細かい配慮をしている経験や、不破エリア、本部のコロナ禍での緊急支援など経験が語られました。

羽島や各務原エリアなど新しく活動を始められた方やこれから子ども食堂を始められる揖斐川、養老町からもフードバンクへの期待が寄せられました。

また、食料支援をされている支援者の参加もあり、支援にこめられた思いが語られ、参加者の感動を呼びました(裏面に詳細)。

「フードバンクぎふ」の活動のきっかけになった「セカンド・ハーベスト」(名古屋)からも代表の方が参加され、今後の協力についても意見交換しました。

「フードバンクぎふ」は、食品ロスをなくし、生活に困窮する方への食料支援だけでなく、支援を通じて「すべての人の人間らしく生きる権利が守られる社会をめざす活動」を目的にがんばっていかうと話されました。

◆会場は、コロナ対策のため、広いホールを使用。手指消毒、マスク着用で十分な間隔をあけて行いました。参加者は29名でした。



2021年1月5日 No.3
発行：フードバンクぎふ
連絡先：大垣市荒尾町14990-3
☎ 0584-92-1400
090-3383-2301 (赤星)

振込口座 ゆうちょ銀行
【店名】二四八
【口座番号】普通 0384661
【口座名義】フードバンクぎふ

今年も新米の寄付

今年もたくさんの新米のご寄付を頂きました。揖斐郡池田町の「白鳥ファーム」さんからはおよそ10tも。その他の農家さんからも寄付頂きました。白鳥ファームさんではサポーターの皆さんで袋詰め作業を行いました。

お米は主食として大事なエネルギーの素。保存もききますし、コロナ禍で急に支援を求める方も増えていますので、とてもありがたいです。



コロナ禍で深刻、学生支援へ食品無料配布



コロナ禍で、バイト先がなくなるなど大学生活が困難になっています。フードバンクぎふでは、岐阜市の岐阜大学、大垣市の岐阜協立大学の学生らを支援しようと、お米やカップ麺などを詰め合わせ、無料配布しました。岐阜協立大では10月に4回、12月にも実施、岐阜大学でも事前に近くの学生アパートなどにチラシを入れるなどして、多くの学生が受け取りに集まりました。学生のなかには「スポーツジムやハンバーガー店のバイトを掛け持ちしていても2万円ほどしかない、助かる」「コロナでバイト先の飲食店が休業し大変」などの声が聞かれました。

こんな方が支援しています

サポーター交流会に参加された大野町「ミス・ベティー」(洋菓子店)さん。美味しいワッフルを頂いていますが、そこには込められた思いがありました。



幼い頃、お父様が事業で失敗、多額の借金を抱え、家族が食べる物にも困る生活をしておられたそうです。そんな時、親戚の方が毎月30kgのお米を送ってくださったそうで、そのことで命をつなぎ、がんばることができて、現在の自分がある。その感謝の気持ちと、人間は誰でも何か少しのきっかけさえあれば立ち直ることができると思っています。自分も何か役に立てればと話されました。

最近では、個人の方が心を込めて支援物資を送ってくださるケースが増えています。クリスマス前にはかわいいお菓子セット。お正月用の小さな鏡モチなど。

生活に余裕がないとなかなか買えないものです。思いやりの心が伝わる贈り物になりました。

ありがとうございました。



おらせ

赤い羽根 新型コロナ感染下の福祉活動応援全国キャンペーン、フードバンクぎふへ95万円の支援が決定しました!

一時的な支援金ですが、エアコン1台、プリンター1台、プラコン200個を購入予定です。これまで、ほぼ個人の好意で活動していましたが、少しずつ備品などを揃えて、継続的に活動ができるようにしたいと思っています。

【最近の主な食品提供先】

- ・セカンドハーベスト名古屋 ・コストコ羽島店(パン) ・大光(缶詰など)
- ・白鳥ファーム(コメ)・東海コープ(冷蔵食品)・コープぎふ西濃支所(乾物)
- ・各務ヶ原・大垣イオンわくわく広場(野菜)
- ・ARIGATOFARMさん(じゃがいも)。その他神戸や大野町の農家さんから小松菜、キャベツなど。個人の方からも柿やみかん、カボチャ、ほうれん草など季節の果物や野菜。現金の寄付もいただき、支援物資の郵送料、引き取りや配達のカソリン代、食品保存用冷蔵・冷凍庫の電気代などに必要なため、とても助かります。ありがとうございました<m(_)_m>

本部より

●ある日、本部に1本の電話が。茅ヶ崎市小学4年生の子どもを持つシングルマザーの方からでした。

「以前、食品を送って頂きお世話になったものです。あの後、病気になり入院し、仕事ができなくなってしまいました。生活保護を申請しましたが、手続きに1ヶ月ほどかかると言われ、お米も昨日で底をついてしまいました。なんとかもう一度お世話になれないでしょうか」。他にも、何度か連絡してこられる方もいます。コロナ禍での生活再建は、とても困難なことを感じます。

前回ニュースでも紹介しましたが、ニュースなどで活動が取り上げられ、支援を求める声が全国から届きました。「フードバンクぎふ」は地域活動です。でも悲痛な声に緊急支援として、全国どこでも食品を発送してきました。しかしGOTOトラベルやGOTOイートなどの影響か、ますますコロナ感染は拡大し、それは非正規雇用労働者やシングルマザーの暮らしを直撃しています。今後ますます厳しくなると思います。今だからこそ、行政の迅速な対応が求められているのではないのでしょうか。●関高校と岐阜工業高校の生徒さんから、フードバンクの活動について、取材や何か自分たちにできることはないか、との問い合わせがあり、若い世代にも関心がたかまっているとうれしくなりました。

私たちは大切にします。「命をつなぎ、生きるを支える」フードバンクの活動を通して食品ロスの削減、地域における社会的孤立の防止、すべての人々の人間らしく生きる権利が守られる社会の実現に寄与することを目的とする。この活動は、みなさんの支援で成り立っています。今後ともご支援をよろしくお願い致します。